Unified Managerで保護関係を設定する

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/data-protection/task_set_up_protection_relationships_in_unified_manager.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

Unified Managerで保護関係を設定する . . . 1
Active IQ Unified Manager で保護関係を設定する . . . 1
Workflow Automation と Active IQ Unified Manager の間の接続を設定する . . . 1
Workflow AutomationでのActive IQ Unified Managerデータソースキャッシュの確認 . . . 2
OnCommand Workflow Automationの再インストールまたはアップグレードがActive IQ Unified Managerに与える影響 . . . 3
Active IQ Unified Manager から OnCommand Workflow Automation の設定を削除する . . . 3

Unified Managerで保護関係を設定する

Active IQ Unified Manager で保護関係を設定する

Unified ManagerとOnCommand Workflow Automationを使用してデータを保護するためのSnapMirror関係とSnapVault関係をセットアップするには、いくつかの手順を実行する必要があります。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。
- 2つのクラスタまたは2つのStorage Virtual Machine（SVM）の間にピア関係を確立しておく必要があります。
- OnCommand Workflow AutomationをUnified Managerに統合する必要があります。
  - "OnCommand Workflow Automation のセットアップ"。
  - "Workflow AutomationでのUnified Managerデータ ソースのキャッシングの確認"。

手順

1. 作成する保護関係のタイプに応じて、次のいずれかの処理を実行します。
   - "SnapMirror 保護関係を作成する"。
   - "SnapVault 保護関係を作成する"。
2. 関係のポリシーを作成する場合は、作成する関係タイプに応じて、次のいずれかの処理を実行します。
   - "SnapVault ポリシーを作成する"。
   - "SnapMirrorポリシーを作成する"。
3. "SnapMirrorまたはSnapVaultスケジュールを作成する"。

Workflow Automation と Active IQ Unified Manager の間の接続を設定する

OnCommand Workflow Automation（WFA）とUnified Managerの間でセキュアな接続を確立することができます。Workflow Automationに接続することで、SnapMirrorやSnapVaultの設定ワークフロー、SnapMirror関係の管理用コマンドなどの保護機能を使用できるようになります。

開始する前に

- Workflow Automationのバージョンが5.1.1P6以降である必要があります。

> 「`WFA pack for managing Clustered Data ONTAP`」は WFA 5.1.1P6 に含まれているため、以前のように NetAppStorage Automation Store からこのパックをダウンロードして WFA サーバーに個別にインストールする必要はありません。 "WFAダウンロード"

- WFAとUnified Managerの接続をサポートするためにUnified Managerで作成したデータベース ユーザの名

前を確認しておく必要があります。

このデータベース ユーザには統合スキーマ ユーザ ロールが割り当てられている必要があります。

- Workflow AutomationでAdministratorロールまたはArchitectのロールが割り当てられている必要があります。
- ホスト アドレス、ポート番号443、およびWorkflow Automationセットアップのユーザ名とパスワードが必要です。
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、**General** > **Workflow Automation** をクリックします。
2. *Workflow Automation*ページの*Database User*領域で、Unified ManagerとWorkflow Automationの接続をサポートするために作成したデータベース ユーザーの名前を選択し、パスワードを入力します。
3. ページの **Workflow Automation Credentials** 欄に、ホスト名または IP アドレス（IPv4 または IPv6）、および Workflow Automation 設定用のユーザー名とパスワードを入力します。

   Unified Managerサーバのポート（ポート443）を使用する必要があります。

4. *保存*をクリックします。
5. 自己署名証明書を使用する場合は、**[**はい**]** をクリックしてセキュリティ証明書を承認してください。

   [Workflow Automation]ページが表示されます。

6. 「はい」をクリックしてWeb UIを再読み込みし、Workflow Automation機能を追加します。

関連情報

"NetAppのマニュアル：OnCommand Workflow Automation（現在のリリース）"

Workflow AutomationでのActive IQ Unified Managerデータソースキャッシュの確認

Unified Managerデータ ソースのキャッシングが正しく機能しているかどうかを判別するには、Workflow Automationでデータ ソースの取得が正常に行われているかどうかを確認します。Workflow AutomationをUnified Managerに統合する際にこの作業を実行して、統合後にWorkflow Automationの機能が利用可能になることを確認できます。

開始する前に

このタスクを実行するには、Workflow AutomationでAdministratorロールまたはArchitectロールが割り当てられている必要があります。

手順

1. ワークフロー自動化UIから、「実行」>「データソース」を選択します。
2. Unified Managerデータソースの名前を右クリックし、*今すぐ取得*を選択します。
3. 収集が正常に実行されてエラーが発生しないことを確認します。

Workflow AutomationをUnified Managerに統合するためには、収集エラーを解決する必要があります。

OnCommand Workflow Automationの再インストールまたはアップグレードがActive IQ Unified Managerに与える影響

OnCommand Workflow Automationを再インストールまたはアップグレードする前に、まずOnCommand Workflow AutomationとUnified Managerの間の接続を解除し、現在実行中またはスケジュール済みのすべてのOnCommand Workflow Automationジョブが停止していることを確認する必要があります。

Unified ManagerをOnCommand Workflow Automationから手動で削除する必要もあります。

OnCommand Workflow Automation を再インストールまたはアップグレードした後、Unified Manager との接続を再度設定する必要があります。

Active IQ Unified Manager から OnCommand Workflow Automation の設定を削除する

OnCommand Workflow Automationが不要となった場合は、Unified ManagerからWorkflow Automationのセットアップを削除できます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、左側の「設定」メニューから「一般」＞「ワークフロー自動化」をクリックします。
2. 「Workflow Automation」ページで、「Remove Setup」をクリックします。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。